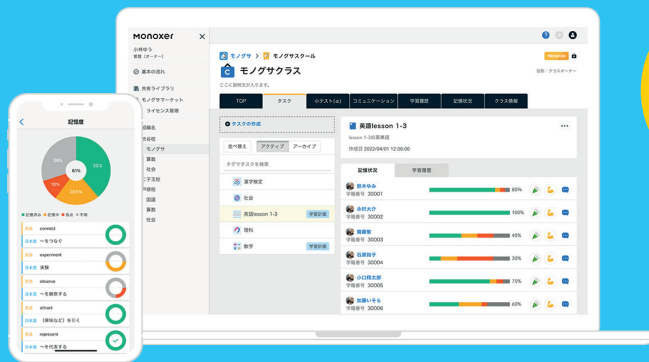


ようこそ記憶の近道へ、Monoxer

生徒がおぼえる、授業がはかどる



どうして生徒によって差が生まれるのか？

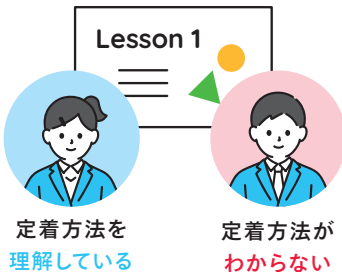
同じ授業を受けているのに、同じ教材を使っているのに、なぜ成績に差がつくのでしょうか？

その秘密は「記憶定着」にあります

理解 同じ授業を受ける

定着 各自の方法で学習

活用 結果に差が出る



自分に合った方法で
復習する



とりあえず教科書を
眺めてみる…



定着しているから
点数がとれる



忘れているから
点数が伸びない

なぜ記憶定着が難しい？



学習者自らが効果的な定着方法を見つける必要があるが、全員が出来る訳ではない



憶えたつもりだが、本人でも一度暗記したことをどれくらい忘れてるか把握できない



既存の教育ICTツールは理解に特化したものが多い
学習者の定着サポートできるツールがない

Monoxer は AI による個別最適な「忘れさせない」サポートにより、

全員の「記憶定着」を実現

Monoxer が先生の教育体験を変える

生徒の確実な基礎定着=先生が本当にやりたい授業をできる

01 指導方法に合わせたコンテンツの作成や購入が可能

自分のオリジナル問題集を作成

Monoxer は憶えたい内容を先生や生徒自身がデータを入れこむことで、AI が様々な問題の形に変えて出題をしてくれます。

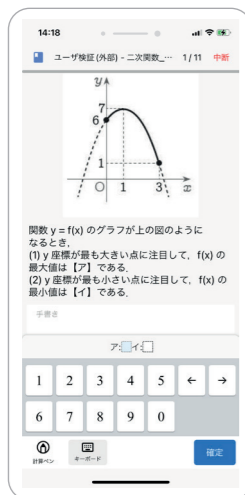
市販教材そのまま利用する

現在使用している出版社が販売している教材を Monoxer 上で購入、配信をして覚えさえるという事も可能で、5 教科以外にも副教科や専門教科にも対応しています。

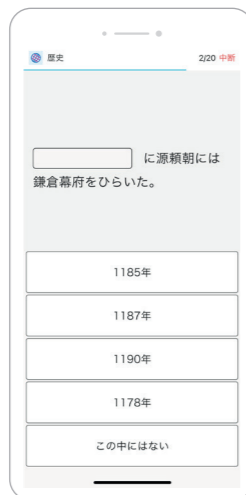
02 教科に応じて、様々な問題形式で学習できる

オリジナル問題集や市販教材をタスクとして生徒に配信し、教科に合う問題形式で学習できます。また 5 教科だけでなく、副教科や専門教科の教材作成にも対応。先生が本当に作りたいコンテンツを自由にカスタマイズ可能です。

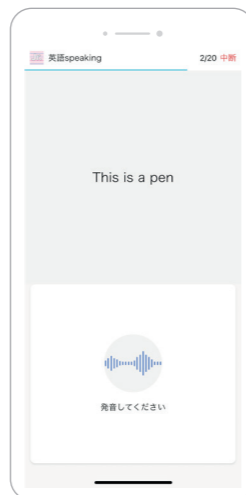
数式



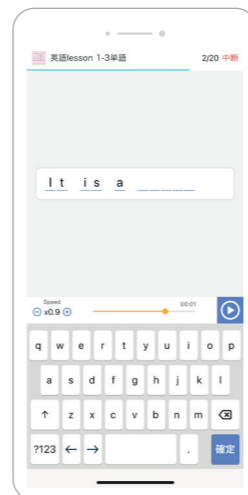
穴埋め



スピーキング



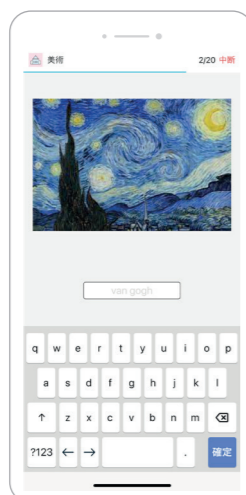
書き取り



専門知識



画像



単語



漢字手書き



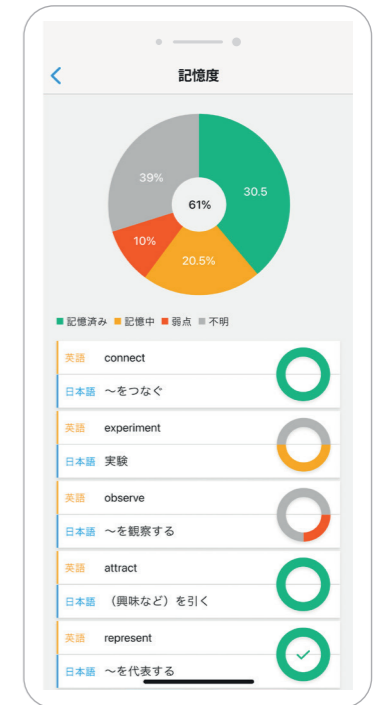
03 今まで体感値だった「記憶状況」の可視化が可能に

学習者は自身の定着状況を「記憶度」として確認できるため、学習継続のモチベーションになります。また管理者は定着状況が見えることによってこれまでよりも効率的に学習者をサポートすることが可能になります

生徒の学習履歴と時間帯が分かる



生徒の記憶状況



クラス全員の記憶状態が分かる



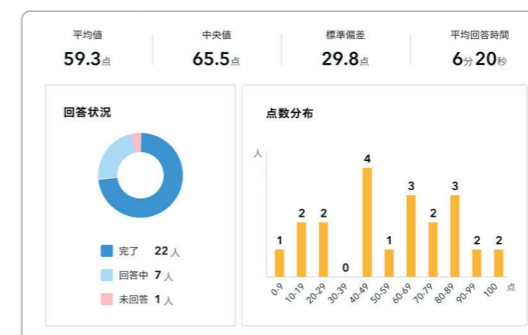
04 小テスト機能で先生の工数削減を実現

確実な記憶定着→テストによる習熟度確認のサイクルを回すことで、学習者はこれまでよりも明確な成長実感を得られます。また管理者はこれまでの紙のテストでかかっていた作問や採点の工数を大幅に削減することが可能になります。

小テスト一回当たり所要時間

	ペーパー	Monoxer
作成	15分	5分
印刷	10分	-
配布	5分	-
テスト実施	10分	10分
回収	5分	-
採点	30分	自動
集計	15分	自動
合計	90分	15分

小テスト結果サマリー



Monoxer で生徒の記憶体験を変える

01 生徒一人一人のペースに合わせて、自動難易度調整によって学習継続率が大きく向上

AIが学習者の習熟度をこれまでの正答率や解答時間によって算出し、常にちょうどよい難易度調整をしてくれます。学習者は出てくる問題を解き続けるだけで、自然に「憶えている」状態に辿り着けます。これまで学習習慣の定着や学習効果を妨げていた「諦め」や「答え丸写し」といったことも防げます。



02 「忘れさせない」ための学習計画を提案

学習計画機能を利用すると、「課題（タスク）を何日で憶えるか」目標を設定できます。目標期限までに憶えきれよう、Monoxerが学習者の分析結果を元に毎日の学習内容を提案します。単語数 ÷ 日数の単純な計画ではなく、学習者に合わせてカスタマイズされるので、着実な記憶定着が可能です。



03 自分の定着状況が一目でわかる

課題（タスク）の学習状況や記憶状況は、学習者も確認可能です。緑色が「記憶済み」を意味しており、緑色 100% を最初の目標にすると良いでしょう。その後は学習者が忘れやすいであろう問題が優先的に出題されるようになるため、テスト前に再度学習すると記憶定着がより促進されます。

